

第42回

北区河川生物生息調査 報告書

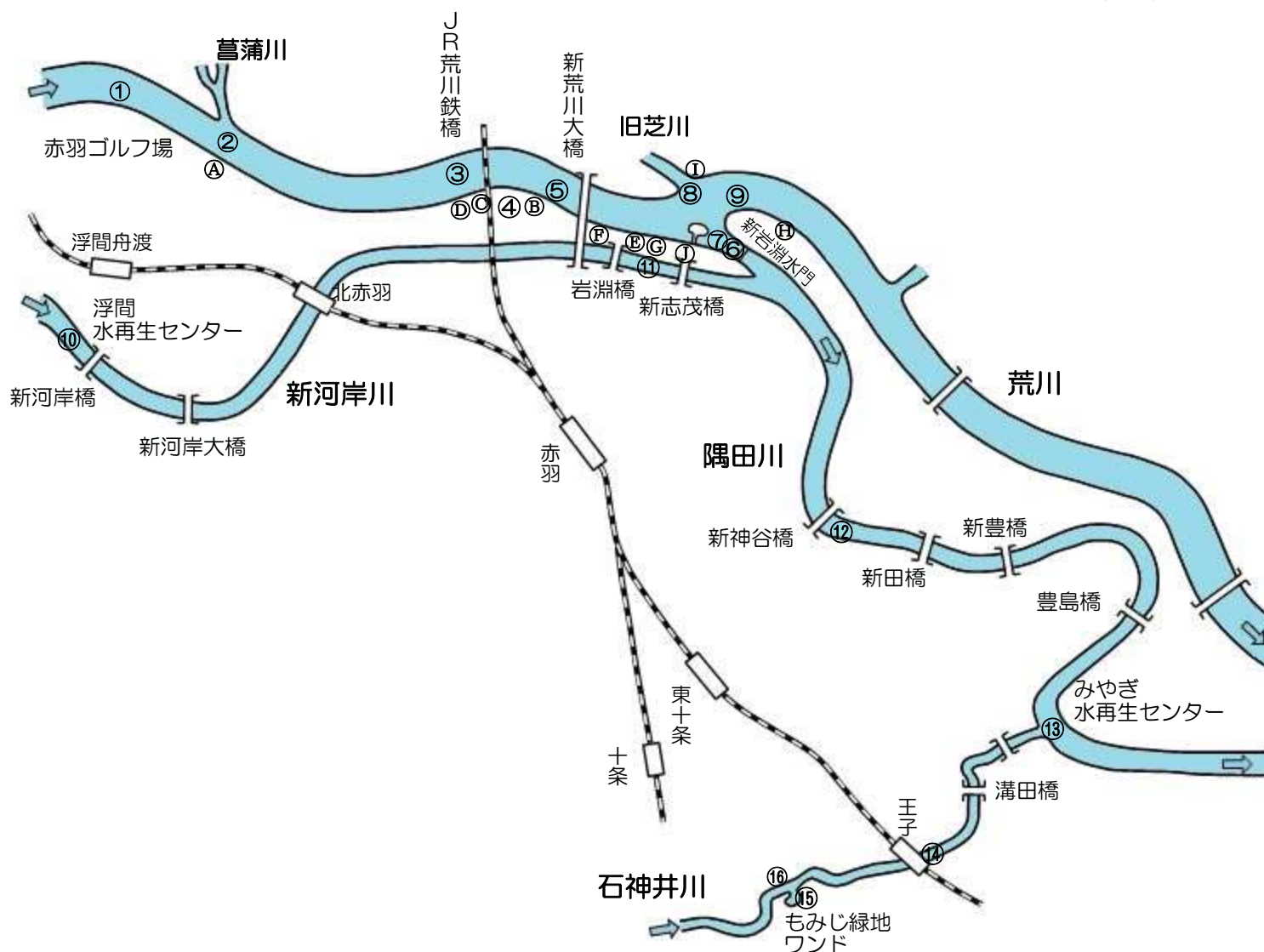
令和7年度



令和8年3月
北 区

北区河川生物生息調査地点図（令和 7 年度）

釣り調査地点 ①～⑩
投網調査地点 ⑪～⑮



投網調査地点

◎令和7年9月9日 ☆10月6日 ★10月21日
[荒川]

- ☆★-①戸田橋下流（赤羽ゴルフ場付近）
- ☆★-②菖蒲川・荒川合流点付近
- ☆★-③JR 荒川鉄橋上流 200m 付近
- ◎-④荒川こどもの水辺ワンド（流出水路も含む）
- ☆-⑤新荒川大橋上流 200m付近
- ☆-⑥新岩淵水門付近
- ☆-⑦旧岩淵水門・新岩淵水門中間
- ☆-⑧旧芝川・荒川合流点付近
- ☆★-⑨旧芝川・荒川合流点下流 200m付近

「新河岸川」

★-⑩浮間水再生センター排水口付近
★-⑪新志茂橋・岩淵橋中間

[隅田川]

☆-⑫新神谷橋付近
☆-⑬みやぎ水再生センター付近

〔石神井川〕

- ☆-⑭石神井川王子駅下トンネル付近
- ◎-⑮もみじ緑地ワンド
- ◎-⑯もみじ緑地ワンド横本流

釣り調査地点

令和7年10月21日

〔荒川〕

- (A) 菖蒲川・荒川合流点右岸
 (B) 荒川子どもの水辺フンド
 (C) JR 荒川鉄橋下付近右岸
 (D) JR 荒川鉄橋上流30m 付近右岸
 (E) 新荒川大橋下流450m 付近右岸
 (F) 新荒川大橋下流150m 付近右岸
 (G) 新荒川大橋下流500m 付近右岸
 (H) 新荒川大橋下流1000m 付近右岸
 (I) 旧芝川・荒川合流点付近
 (J) 新荒川大橋下流800m 付近右岸

は じ め に

私たちの住む北区には、荒川をはじめ隅田川・新河岸川・石神井川の4河川が流れています。川は、昔から人々と深いかわりを持ち、まちの産業・文化の発展に大きな役割をはたしてきました。また、豊かな流れと美しい自然の景観も多くの恵みをもたらしてくれました。

しかし、戦後の産業経済の発展と急速な都市化の進行にともない、川は、工場排水や生活排水により著しく汚れてしまいました。なかには、一時期、悪臭がして魚も棲めないため、「死の川」と呼ばれた川もあったほどです。さらに、治水対策として垂直のコンクリート護岸がつくられ、人々をますます水辺から遠ざけてしまいました。

このように川が下水に近くなった時代から、近年は汚濁発生源に対する規制の強化と下水道整備等により、水質は良くなってきました。また、河川環境の整備も進み、各種の魚も見られるようになって、川は再び憩いの水辺として甦りつつあります。

しかし、魚などの水生生物が安定して棲め、誰もが安らぎやうるおいを得られる川としては、河川の構造改善、水質・流量の安定など、まだまだ多くの課題があります。さらなる水質改善や水辺環境の向上を図るには、区が各種の施策を積極的に推進することはいうまでもありませんが、区民の方々にも河川に対する強い関心を持っていただき、多方面からの対策を展開することが必要です。

区では、化学分析による水質調査だけではなく、河川の魚類生息状況を調査し、推移をみることにより河川環境を判断することを目的として、昭和59年度から「河川生物生息調査」を継続実施しています。この報告書は、令和7年度に実施した第42回調査の結果をまとめたものです。誰にでも親しめる水辺環境の実現に向けて、区民の方々に河川の水質や環境に対する理解を深めていただくための参考となれば幸いです。

なお、当調査にご協力いただいた北区釣魚連合会、淡水魚類研究者の君塚芳輝氏、一澤成典氏、並びに関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

令和8年3月

東京都北区 生活環境部環境課

目次

はじめに

調査概要	1
調査結果	2
河川別個体数	3
外来種の確認状況・絶滅危惧種等の確認状況	4
魚肉分析結果	5

資料

・日程及び捕獲種別状況（第1回・第2回）	6
・ // （第3回）	7
・北区で見られる魚たち	8～11
・年度別捕獲魚類一覧表	12
・河川別・年度別捕獲魚類一覧表	13
・河川水質の経年変化(年平均値)	14～15
・北区を流れる河川の環境基準	15

第2回調査から参加している淡水魚類研究者の君塚芳輝氏によるコメント

42年も職員による調査を続けている北区環境課に敬意を表する。今年度は新たな種類は見つからなかったものの、ここ数年はカライワシやクルマサヨリなどが安定してみられ、在来魚の種類の多様性が豊かになっていることは喜ばしい。

表紙写真:北区釣魚連合会のみなさん

【調査概要】

北区では北区内の河川に生息している魚類を把握するため、令和7年9月～10月にかけて計3回魚類調査を行いました。採集した魚は、種・亜種（以下種類とする）の同定、個体数、全長と標準体長（最少～最大）の測定を行いました。

第1回調査は令和7年9月9日に、石神井川もみじ緑地ワンド・ワンド横の石神井川本流と、荒川子どもの水辺ワンドで、歩いての投網・手網による調査をしました。

第2回調査は令和7年10月6日に、荒川・隅田川・石神井川で、船からの投網による調査をしました。

第3回調査は令和7年10月21日に、荒川で、北区釣魚連合会の協力による釣りと、荒川・新河岸川で船からの投網による調査をしました。

採集した一部の魚については、可食部の総水銀とPCBの含有量について魚肉分析をしました。

	調査日	調査項目	天気	参加人数	調査方法	調査場所
第1回	9月9日	魚類生息状況	晴れ	13名	歩いての投網・手網	石神井川・石神井川もみじ緑地ワンド 荒川子どもの水辺ワンド
第2回	10月6日	魚類生息状況	晴れ	11名	船からの投網	荒川 隅田川 石神井川
第3回	10月21日	魚類生息状況 魚肉分析	曇り	26名	釣り 船からの投網	荒川 新河岸川

〔石神井川もみじ緑地ワンド（音無もみじ緑地）〕

すり鉢状の護岸構造ですが、階段があって川岸近くまで降りることができます。川に面してワンドが設けられ、本流の流水環境に対して静水環境を付加することで、河川の構造的環境の多様性を高めています。ワンドの中央には水生植物などが繁茂し、増水時に川から入ってきた魚が定着しやすいようになっています。

〔荒川子どもの水辺ワンド（北区・子どもの水辺）〕

JR荒川鉄橋と新荒川大橋の間に挟まれた高水敷に、ワンドのある自然地「北区・子どもの水辺」が整備されています。平成26年度には、国土交通大臣表彰の「手づくり郷土賞」一般部門に選定されました。また、地域のボランティアの方々の熱心な活動に支えられ、良好な生態系の保持と多世代にわたる人々の自然環境学習の場として利用されています。令和2年度には、ボランティア団体である「北区・子どもの水辺協議会」が「第22回日本水大賞」審査部会特別賞を受賞いたしました。



【調査結果】

3日間の調査で28種類 989尾が確認され、個体数としては、近年では多めに捕獲できた結果となりました。調査を始めてから今までに確認された魚種は59種類です。

東京都レッドリスト記載種は5種類、環境省レッドリスト記載種は2種類、外来種は3種類確認されました。魚種の内訳は、淡水魚種と海水・汽水性魚種であり、広い範囲が汽水域や感潮域である北区内河川の特徴を表しています。

石神井川もみじ緑地ワンドなどで確認されたアブラハヤ・ウグイ・シマドジョウは、元々この川には生息せず、多くの魚種は川での流程分布も異なるため、明らかに人為的放流によるものと考えられます。ビリンゴも放流が疑われます。人為的放流は地域に形成された生物相や生態系、遺伝子資源に様々な影響を及ぼす可能性があるため、絶対に行うべきではありません。

調査の歴史を振り返ると、本事業開始の昭和59年度の隅田川及び石神井川の投網には魚がかからずメタンガスの浮上が観測され、汚泥はヘドロ状でイトミミズがいる状況でした。当時は荒川には汚染に強いコイが多く73センチ級も捕獲されています。下水道が普及した後の平成7年はコノシロが捕獲され、石神井川にはボラの大群も見られました。平成10年度には汚泥調査は役割を終え、翌年にはヒイラギも初観測され河川の清浄化も新聞報道されました。しかし平成16年を境にカダヤシやブルーギルなどの特定外来生物の発生と増加も観測されてきました（4つの川の9種類 131尾）。環境基準で荒川・隅田川は該当類型 D、石神井川・新河岸川は E で始まった調査はワンドに場所を拡大しつつ、石神井川 B、その他 C になり上記の魚群を確認できるまでになっています。

【1日目】



手網によるワンド調査（石神井川もみじ緑地ワンド）



手網によるワンド調査（荒川子どもの水辺ワンド）

【2日目】



船からの投網（荒川）



釣りによる採集（協力：北区釣魚連合会）

【河川別個体数】

各河川において確認された種類と個体数は以下のとおりです。

番号	目名	科名	標準和名	荒川		隅田川	新河岸川	石神井川		合計	備考	
				荒川	子どもの水辺 ワンド			石神井川	もみじ緑地 ワンド			
1	ニシン	ニシン	サッパ	14						14		
2			コノシロ	230		15	6			251		
3	ウナギ	ウナギ	ウナギ	1				1		2		
4	コイ	コイ	タモロコ						10	10	国内移殖種	
5			モツゴ	2	7				15	24		
6			ニゴイ	10				1		11		
7			アブラハヤ**						14	14	国内移殖種※	
8			ウグイ**						4	4		
9			オイカワ					1	32	33		
10			ギンブナ	1	1			1	2	5		
11			コイ	1	3	1		1	1	7		
12			タイリクバラタナゴ	3	3					6	外来種	
13			ドジョウ	ドジョウ					17	21	38	
14				シマドジョウ**					1	28	29	国内移殖種※
15		ダツ	サヨリ	クルメサヨリ	1					1		
16	カダヤシ	カダヤシ	カダヤシ	3	173				176	特定外来種		
17	ボラ	ボラ	ボラ	30	24	4	2			60		
18	スズキ	スズキ	スズキ	29	2					31		
19		タイ	キチヌ	5	2					7		
20		サンフィッシュ	ブルーギル	26	4					30	特定外来種	
21		ヒイラギ	ヒイラギ	1						1		
22		シマイサキ	シマイサキ	1	1					2		
23		ハゼ	アベハゼ	20	4					24		
24			ビリンゴ*						1	1		
25			ヌマチチブ	67	4					71		
26			シモフリシマハゼ	44	5					49		
27			マハゼ	76	4					80		
28			アシシロハゼ	8						8		
7 目 13 科 28 種類			個体数合計	573	237	20	8	23	128	989		
			種類数	21	14	3	2	7	10			

※国内他水域からの人為的放流の可能性が高い

** 荒川水系の天然分布種だが、本流からの遡上はできないので、人為的な放流と思われる

* もみじ緑地ワンドでとれたビリンゴは海と川を往復するが、王子駅下のトンネル部分の速い流速部を通過できたかどうかは疑問。トンネル内の調査結果（P6の（3））を見ても、380mm以上の大型魚だけしか見られていないので、放流が疑われる。

【外来種の確認状況】

「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（外来生物法）」で特定外来生物と指定された種及び「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト（生態系被害防止外来種リスト）」に記載された外来種を「外来種」としました。

特定外来生物に指定されているブルーギルは小型魚類やエビ類などを捕食するため、在来生物群集に対する影響が懸念されています。

目名	科名	種名	荒川	隅田川	新河岸川	石神井川	特定外来生物	生態系被害防止外来種リスト
コイ	コイ	タイリクバラタナゴ	○					●
カダヤシ	カダヤシ	カダヤシ	○				●	●
スズキ	サンフィッシュ	ブルーギル	○				●	●

【絶滅危惧種等の確認状況】

環境省レッドリスト 2020 及び東京都レッドデータブック（2023 年版）の選定基準で指定されている種。東京都レッドデータブックは区部の評価を基準としました。

目名	科名	種名	荒川	隅田川	新河岸川	石神井川	東京都 レッドデータブック	環境省 レッドリスト	国内 移殖種
コイ	コイ	ニゴイ	○			○	準絶滅危惧		
		アブラハヤ※				○	準絶滅危惧		○
	ドジョウ	ドジョウ				○	絶滅危惧ⅠA 類	準絶滅危惧	
ダツ	サヨリ	クルマサヨリ	○				絶滅危惧ⅠA 類	準絶滅危惧	
ハゼ	ハゼ	アシシロハゼ	○				準絶滅危惧		

※荒川水系の天然分布種だが、本流からの溯上はできない。また都市河川である石神井川では、国内他水域からの人為的放流の可能性が極めて高い

「東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）～東京都レッドデータブック～2023 年版」（東京都環境局）

絶滅危惧ⅠA 類：ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの

絶滅危惧ⅠB 類：ⅠA 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの

絶滅危惧Ⅱ類：現在の状態をもちたらしめた圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のランクに移行することが確実と考えられるもの

準絶滅危惧：現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの

留意種：現時点では準絶滅危惧のレベルではないが、相対的に数が少ない種であり、容易に個体数が減少することがあり得るため、その動向に留意する必要があるもの

「環境省レッドリスト 2020【汽水・淡水魚類】」

絶滅危惧ⅠA 類：ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの

絶滅危惧ⅠB 類：ⅠA 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの

絶滅危惧Ⅱ類：絶滅の危険が増大している種

準絶滅危惧：現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する要素を有するもの

【魚肉分析結果】

採集した魚類の中から6検体を選び、可食部に含まれている総水銀と PCB の量を分析しました。その結果、全検体で総水銀と PCB が検出されましたが、暫定的規制値以下でした。

令和7年 10月 21日採集

	魚類名	捕獲河川 名	場所	総水銀	P C B
				mg/kg	mg/kg
1	ボラ	荒川	㊸菖蒲川・荒川合流点付近	0.02	0.37
2	キチヌ	荒川	㊹荒川子どもの水辺ワンド	0.05	0.46
3	マハゼ	荒川	㊺JR 荒川鉄橋下付近右岸	0.03	0.20
4	スズキ	荒川	㊻新荒川大橋下流 500m付近右岸	0.20	0.27
5	キチヌ	荒川	㊼旧芝川・荒川合流点付近	0.05	0.20
6	コノシロ	新河岸川	㊽浮間水再生センター排水口付近	0.06	0.71

- (備考) 1.総水銀とは水銀及びその化合物をいう。
 2.分析値は全て乾燥試料あたりに換算してある。
 3.分析部位の可食部については、数匹の可食部を混合したものである。
 4.暫定的規制値
 ・総水銀…0.4mg/kg
 ・PCB(可食部のみ)内海魚…3mg/kg
 5.試験方法：衛生試験方法 2.4 食品汚染物試験法準拠
 6.番号・記号は地図上の採取場所を示す。

【資料】

第1回投網・手網調査の結果（令和7年9月9日）

(1) 荒川

荒川子どもの水辺ワンド④

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	モツゴ	60~92	48~71	7
2	ギンブナ	79	57	1
3	コイ	20~230	16~185	3
4	タイリクバラタナゴ	18~23	13~19	3
5	カダヤシ	12~35	11~29	173
6	ボラ	100~164	83~133	24
7	スズキ	127~139	103~104	2
8	ブルーギル	30~57	23~46	4
9	シマイサキ	40	33	1
10	アベハゼ	12~25	10~20	4
11	ヌマチチブ	47~60	36~49	4
12	シモフリシマハゼ	25~40	20~32	5

荒川子どもの水辺ワンド流出水路④

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	モツゴ	29~30	24~24	2
2	タイリクバラタナゴ	17~19	13~14	3
3	カダヤシ	22~31	18~25	3
4	ブルーギル	20	17	1
5	アベハゼ	21~31	17~25	20
6	ヌマチチブ	20~46	16~38	47
7	シモフリシマハゼ	23~48	18~40	37
8	マハゼ	78	60	1
9	アシシロハゼ	29~42	24~34	8

(2) 石神井川

もみじ緑地ワンド⑮

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	タモロコ	69~90	55~69	10
2	モツゴ	72~89	58~72	15
3	アブラハヤ	33~82	26~65	14
4	ウグイ	46~65	38~53	4
5	オイカワ	75~121	61~103	32
6	ギンブナ	83~125	64~100	2
7	コイ	110	85	1
8	ドジョウ	40~118	32~102	21
9	シマドジョウ	41~70	35~59	28
10	ビリンゴ	55	43	1

もみじ緑地ワンド横本流⑯

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	オイカワ	100	82	1
2	ドジョウ	12~83	10~70	17
3	シマドジョウ	42	35	1

※各丸番号は地図上の採取ポイントを示す。

第2回投網調査の結果（令和7年10月6日）

(1) 荒川

戸田橋下流（赤羽ゴルフ場付近）①

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	コノシロ	80~183	65~147	13
2	ボラ	175	137	1
3	マハゼ	106	87	1

菖蒲川・荒川合流点付近②

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	コノシロ	80~156	65~127	12
2	ボラ	161~180	133~145	5
3	スズキ	195	150	1

JR荒川鉄橋上流200m付近③

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	コノシロ	118~131	92~116	6
2	ニゴイ	100~153	79~125	4
3	ボラ	169	127	1
4	スズキ	137	105	1
5	シマイサキ	77	56	1
6	マハゼ	94~118	77~97	3

新荒川大橋上流200m付近⑤

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	コノシロ	118~131	92~116	7
2	ニゴイ	145	117	1
3	スズキ	127~445	101~390	2
4	マハゼ	123	97	1

新岩淵水門付近⑥

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	コノシロ	107~169	89~135	56
2	ニゴイ	572	412	1
3	ギンブナ	300	241	1
4	スズキ	148~363	119~296	7

旧岩淵水門・新岩淵水門中間⑦

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	コノシロ	107~169	89~135	7
2	ニゴイ	141	118	1
3	コイ	287	239	1
4	クルマサヨリ	160	108	1
5	ボラ	137	109	1

旧芝川・荒川合流点付近⑧

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	コノシロ	118~131	92~116	69
2	ニゴイ	172	139	1
3	スズキ	120	95	1
4	マハゼ	112	88	1

旧芝川・荒川合流点下流200m付近⑨

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	ニゴイ	505	435	1
2	マハゼ	112	90	1

(2) 隅田川

新神谷橋付近⑫

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	コノシロ	114~126	93~100	15
2	コイ	163	129	1
3	ボラ	116~169	94~132	3

みやぎ水再生センター付近⑬

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	ボラ	152	123	1

(3) 石神井川

石神井川王子駅下トンネル付近⑭

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	ウナギ	525	506	1
2	ニゴイ	433	353	1
3	ギンブナ	386	303	1
4	コイ	780	640	1

第3回投網調査の結果（令和7年10月21日）

(1)荒川

戸田橋下流（赤羽ゴルフ場付近）①

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	コノシロ	121	98	1
2	ボラ	159~181	127~146	4

菖蒲川・荒川合流点付近②

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	ボラ	139~192	114~151	14

JR荒川鉄橋上流200m付近③

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	サッパ	88	68	1
2	コノシロ	93~158	76~129	55
3	ボラ	146~178	117~145	3
4	ヒイラギ	72	58	1
5	マハゼ	119	93	1

旧芝川・荒川合流点下流200m付近⑨

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	サッパ	85~129	70~100	13
2	コノシロ	123~129	98~105	4
3	ニゴイ	147	116	1
4	ボラ	178	145	1
5	マハゼ	112~144	93~106	4

(2)新河岸川

浮間水再生センター排水口付近⑩

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	コノシロ	123~140	99~113	6

新志茂橋・岩淵橋中間⑪

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	ボラ	173~173	138~140	2

※各丸番号・記号は地図上の採取ポイントを示す。

第3回釣り調査の結果（令和7年10月21日）

(1)荒川

A. 菖蒲川・荒川合流点右岸

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	スズキ	182	152	1
2	ブルーギル	125~218	93~162	21

B.荒川子どもの水辺フンド

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	キチヌ	180~199	140~168	2
2	マハゼ	124~140	100~110	4

C. JR荒川鉄橋下付近右岸

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	マハゼ	102~135	83~110	15

D. JR荒川鉄橋上流30m付近右岸

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	ブルーギル	145~200	116~150	4
2	マハゼ	121~145	96~110	2

E. 新荒川大橋下流450m付近右岸

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	マハゼ	133~152	105~122	5

F. 新荒川大橋下流150m付近右岸

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	マハゼ	121~161	98~111	5

G. 新荒川大橋下流500m付近右岸

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	スズキ	132~169	103~133	8
2	キチヌ	178	144	1
3	マハゼ	123~149	94~121	10

H. 新荒川大橋下流1000m付近右岸

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	ウナギ	132	126	1
2	スズキ	160~169	130~133	2
3	ヌマチチブ	50~65	32~56	20
4	シモフリシマハゼ	42~57	33~44	7

I. 旧芝川・荒川合流点付近

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	スズキ	120~160	98~153	6
2	キチヌ	167~215	136~172	4
3	マハゼ	98~160	75~153	21

J. 新荒川大橋下流800m付近右岸

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	マハゼ	122~150	98~120	5

北区で見られる魚たち 1 ー河川生物生息調査で捕れた種類ー

<1> サッパ



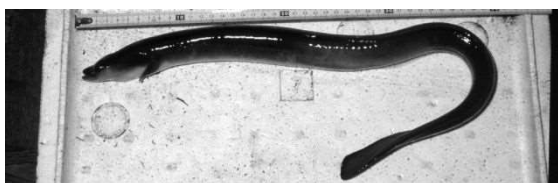
<2> コノシロ



<3> カライワシ



<4> ウナギ



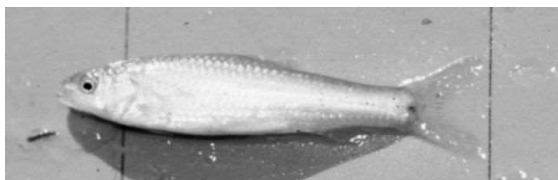
<5> アユ



<6> ワカサギ



<7> タモロコ



<8> スゴモロコ



<9> モツゴ



<10> ニゴイ



<11> カマツカ



<12> ツチフキ



<13> アブラハヤ



<14> ウグイ



<15> マルタ



<16> カワムツ



北区で見られる魚たち 2 ー河川生物生息調査で捕れた種類ー

<17> オイカワ



<25> ゲンゴロウブナ



<18> ハス



<26> キンギョ



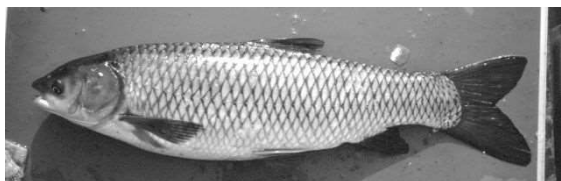
<19> ワタカ



<27> コイ



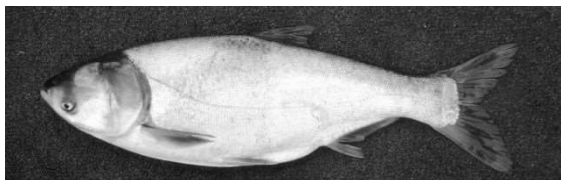
<20> ソウギョ



<28> ヤリタナゴ



<21> ハクレン



<29> アカヒレタビラ



<22> コクレン



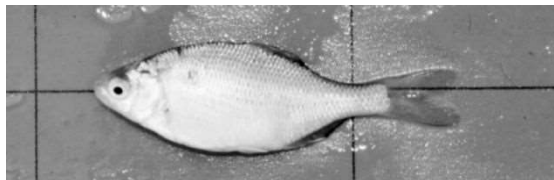
<30> タイリクバラタナゴ



<23> キンブナ



<31> ゼニタナゴ



<24> ギンブナ



<32> ドジョウ

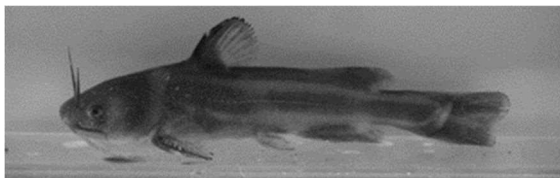


北区で見られる魚たち 3 ー河川生物生息調査で捕れた種類ー

<33> シマドジョウ



<34> ギバチ



<35> ナマズ



<36> メダカ



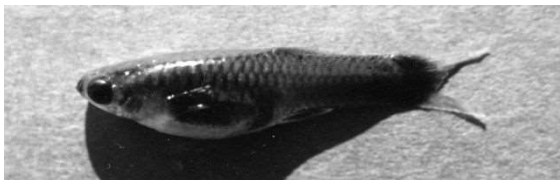
<37> クルメサヨリ



<38> カダヤシ ※特定外来生物



<39> グッピー



<40> ボラ



<41> カムルチー



<42> スズキ



<43> キチヌ



<44> ブルーギル ※特定外来生物



<45> オオクチバス ※特定外来生物



<46> コクチバス ※特定外来生物



<47> ヒイラギ



<48> シマイサキ



北区で見られる魚たち 4 ー河川生物生息調査で捕れた種類ー

<49> コトヒキ



<50> アベハゼ



<51> ヒナハゼ



<52> クロダハゼ



<53> ウロハゼ



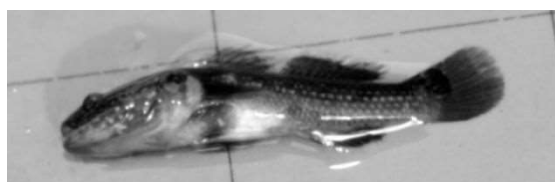
<54> ウキゴリ (淡水型)



<55> ビリンゴ



<56> ヌマチチブ



<57> シモフリシマハゼ



<58> マハゼ



<59> アシシロハゼ

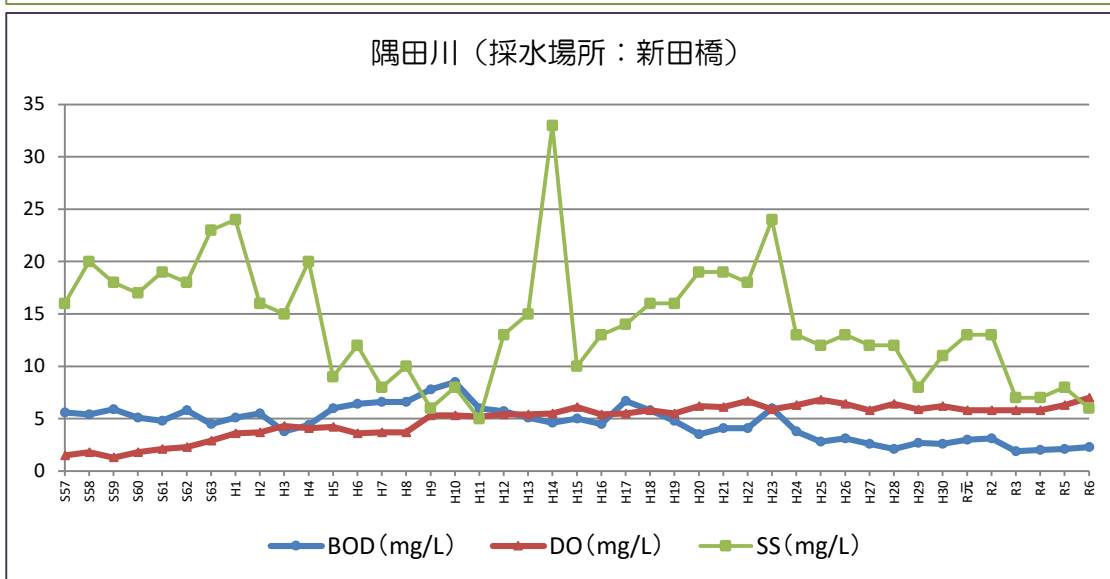
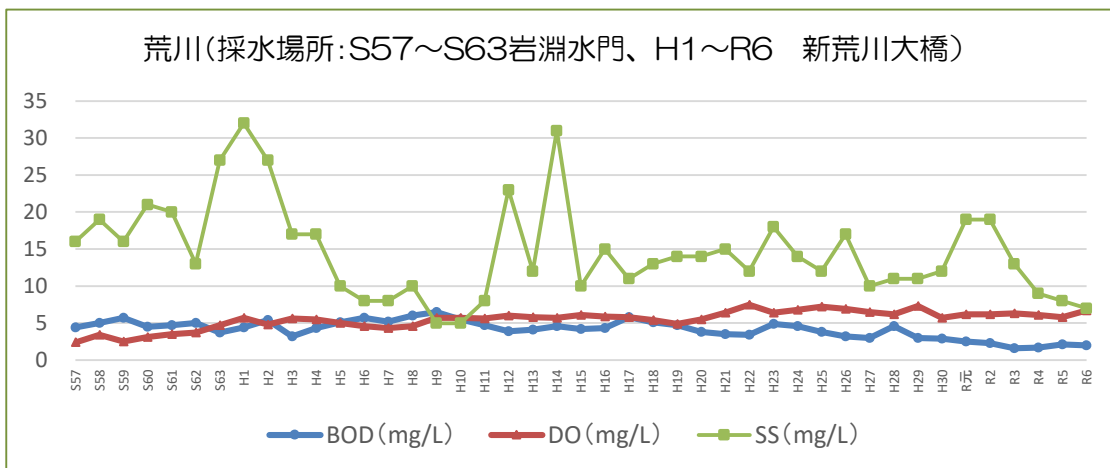


君塚芳輝氏撮影：

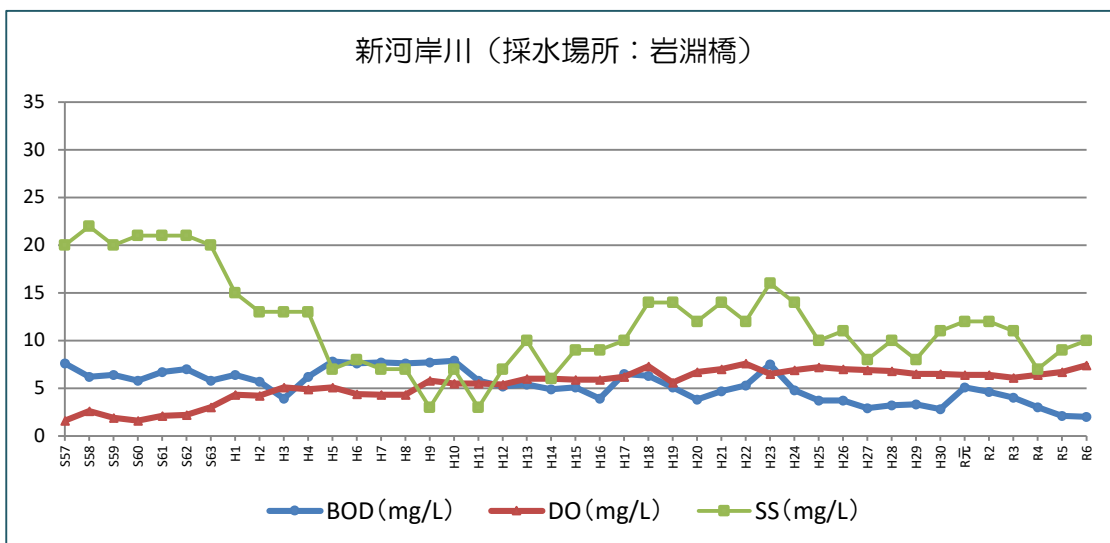
1,11,14,16,23,28,33,38,48,49,50,52,55

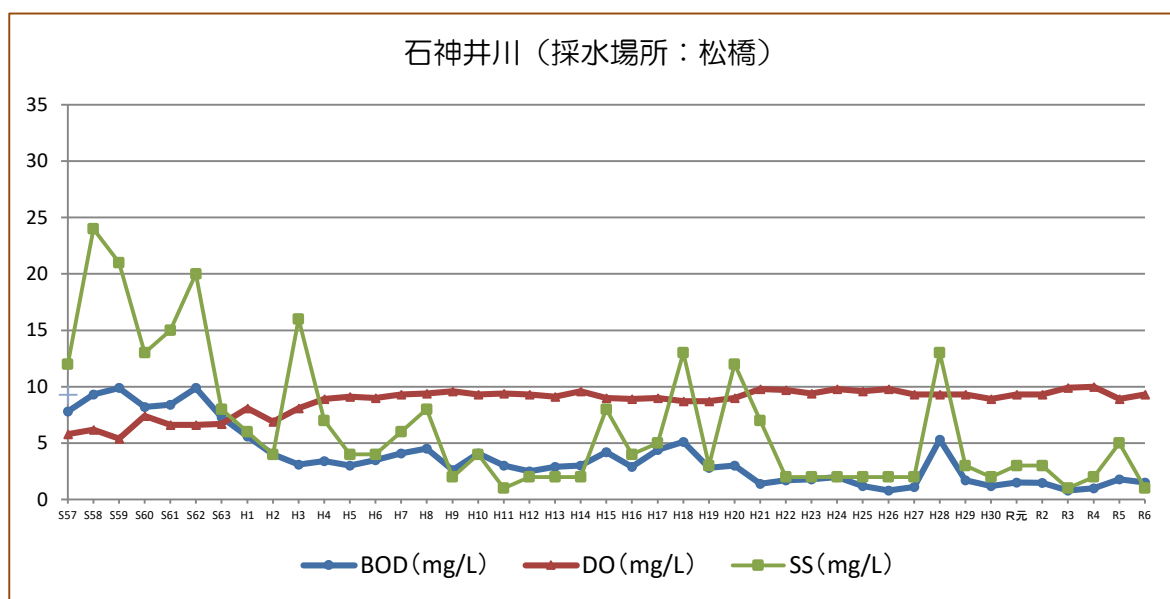
番号	魚 類	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	第12回	第13回	第14回	第15回	第16回	第17回	第18回	第19回	第20回	第21回	第22回	第23回	第24回	第25回	第26回	第27回	第28回	第29回	第30回	第31回	第32回	第33回	第34回	第35回	第36回	第37回	第38回	第39回	第40回	第41回	第42回	番号	
		S59年度	S60年度	S61年度	S62年度	S63年度	H1年度	H2年度	H3年度	H4年度	H5年度	H6年度	H7年度	H8年度	H9年度	H10年度	H11年度	H12年度	H13年度	H14年度	H15年度	H16年度	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度		
1	サッパ																																												
2	コノシロ											4				29	7		6	1	98	19				91	21	19		39	20	65		2	10	2	1	41	63	30	115	23	14	1	
3	カライワシ																																												
4	ウナギ							2	2	1		6				1			1							1		1		1	2	2	3			1						1	2		
5	アユ							1	1																																				
6	ワカサギ															1	4			1	44	13	4				1		2				6	9				1							
7	タモロコ													1							3		6	12	8	1		11	9	15	11		5	39	12	46	8	5	3	4	5	4	10		
8	スゴモロコ		18	76		1						5									1	1	2	4			3	8				4	14		1	1		1			6				
9	モツゴ	5	18	9		稚魚	6	1	多数	58	61	72	46	22	149	75	236	507	67	42	19	297	235	192	231	192	189	109	48	50	102	137	31	50	171	89	162	50	22	95	54	71	78	24	
10	ニゴイ	11	9	7		稚魚	2		15	5	16	8	4	5	2	3	7	12	8	8	14	9	14	3	12	7	14	11	24	4	26	7	5	9	9	15	5	31	13	93	11	11	20	11	
11	カマツカ				1																1	1																		1		1			
12	ツチフキ					1																1											2	1											
13	アブラハヤ																		6	2	11	2	33	121	81	77	202	6	120	68	164	56	298	261	3	353	47	79	33	327	85	9	14		
14	ウグイ	3	1	1	2	1	5	9	4		20										2	33	121	81	77	202	6	120	68	164	56	298	261	3	353	47	79	33	327	85	9	14			
15	マルタ						2	1	10																																				

★は特定外来生物



※平成14年7月12日採取分は同月10日の雨（台風）による濁りの影響がありSS年平均を押し上げた。





【北区を流れる河川の環境基準】

類型	該当河川	基準値			
		水素イオン濃度 (pH)	生物化学的溶存酸素 要求量 (BOD)	浮遊物質 (SS)	溶存酸素量 (DO)
B	石神井川	6.5 以上 8.5 以下	3 mg/L 以下	25 mg/L 以下	5 mg/L 以上
C	荒川 隅田川 新河岸川	6.5 以上 8.5 以下	5 mg/L 以下	50 mg/L 以下	5 mg/L 以上

※類型は東京都告示第 463 号（平成 29 年 3 月 17 日）により指定されている。

- 水素イオン濃度 (pH) :
液体が酸性であるかアルカリ性であるかを示す指標。0 から 14 の間の数値で表現されています。pH7 が中性、小さくなるほど酸性、大きくなるほどアルカリ性であることを表しています。
- 生物化学的酸素要求量 (BOD) :
水中の汚濁物質の量について、それが微生物によって酸化分解される際に必要とされる酸素の量をもって表したものです。値が大きくなるほど汚濁が進んでいることを示します。水質環境基準の代表的なもので、主に河川の有機性汚濁物質による水質汚濁指標として用いられています。
- 浮遊物質 (SS) :
水中に浮遊して溶解しない物質の総称で、水の汚濁状況を示す重要な指標のひとつ。河川に SS が多くなると、光の透過を妨げ、自浄作用を阻害し、魚類に悪影響を及ぼします。また、沈降堆積すると、川底の生物にも悪影響を及ぼします。
- 溶存酸素量 (DO) :
水中に溶解している酸素のこと。酸素のない川や少ない川はいわば死んだ川で、魚類は生存できません。



ゼロカーボンシティ

北区 ▶ 2050

北区河川生物生息調査報告書

令和8年3月発行

刊行物登録番号

7-3-072

発行／北区生活環境部環境課

〒114-0002

東京都北区王子1-12-4

TIC 王子ビル 2階

TEL 03 (3908) 8618 (直通)